

平成24年度 地区別父母懇談会 開催

二松学会大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成24年11月30日発行
(第78号)

二松学会大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松学会大学教学課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



岩田会長挨拶



(ともに東京会場・九段校舎)



渡辺学長挨拶

平成二十四年度二松学会大学地区別父母懇談会が、六月二十四日(日)の青森市・福岡市を始めとし、七月二十二日(日)まで全国七都市(開催日程順に秋田市・新潟市・千代田区「九段校舎」・宇都宮市・鹿児島市)で開催されました。

地区別父母懇談会は、父母会の主要事業の一つで、今年で二十回を数えます。大学から学長・副学長・学務局長・学部長・両学部の教員及び職員が分担して各地に赴き、父母との懇談を行いました。

懇談会の内容は大学の現況、本学の教育方針、学習状況・学生生活・就職状況等についての説明、個別相談でした。父母の関心が高かったのは、「学習状況」と「就職状況等について」でした。

九段校舎では、キャリアセンターによる「企業が求めている学生の資質とキャリアセンターの学生支援について」の講演があり、好評を博しました。内容については、六〜七頁に掲載していますので、一読ください。



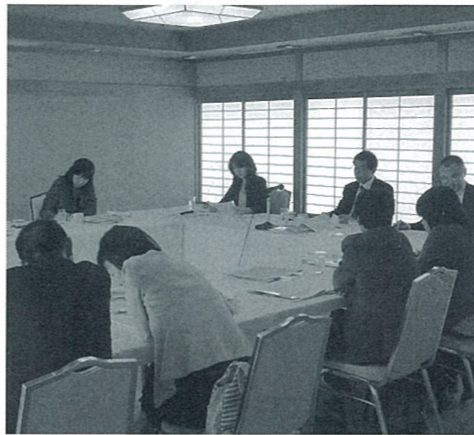
六月二十四日(日)の青森県、福岡県を皮切りに全国各地で父母懇談会が開催され、父母と大学教職員の交流が行われました。その内容を寄稿していただきました。

青森会場

金田 留美子

六月二十四日、青森県会場(青森国際ホテル)で、地区別父母懇談会が開催され、一、四年生の学生の父母六名の参加者がありました。
ご挨拶のあと、大学の現況、学生生活についての詳しい説明があり、また昼食時に見せていただいたDVDでは、キャンパスでの学生の様子がわかりやすく紹介され、自分達の子供も「こんな風に過ごしているのだろう」と思い、ほっとしました。が、やはり、初めて親元を離れ、一人暮らしをしている娘は本当に大丈夫だろうか心配でした。

しかし、個別の履修登録確認表等も配布され、一時間目から授業がある日、午後からの授業の日等、遠く離れて学生生活を送っている子供がどんな授業を取っているのか、取得単位はどうなっているのかなどの情報を得ることができ安心しました。
四年生の息子さんを持つご父兄様は「息子は○曜日の午前は授業を取っていないことが初めてわかつた。午前中は何をしているのやら。」と笑ったり、懇談も楽しく過ごさせていただきました。また、参加したご父兄様方から今どきの就職活動について教えていただいたり、先生方からも懇談の場だから聞けるという細かなご助言もいただき、参考になったことばかりで、本当に参加して良かったです。このような機会を作っていただきましたことに感謝いたしますとともに、大学及び父母会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。



福岡会場

野田 克彦

福岡会場の父母懇談会は、六月二十四日(日)梅雨空の中、都ホテルにて開催されました。大学からは、吉崎一衛副学長をはじめ、土屋茂国際政治経済学部主任、志村孝教学務副部長、中原敬二入試課長補佐の四名がご臨席を頂き、父母は六名の参加で和やかな雰囲気の中で行われました。

今年度創立一三五周年を迎える事、都心の九段で全員四年間学べるようになった事、学習状況、履修登録、GPA制度、就職状況など、パンフレットに沿って丁寧に詳細な説明をして頂きました。特に就職に関しては、就職難の現在、一番の心配の種でした。キャリアセンターの学生支援についての説明、とにかく頻りに利用することなどのアドバイスも頂き、気持ちが少し楽になりました。また海外留学の話など、とてもありがたく聞かせていただきました。昼食時には、おいしいお弁当を頂きながらDVDによるキャンパス紹介もあり、恵まれた環境の中で学生生活を過ごせることにありがたく思いました。また二松学舎オリジナルグッズのお土産まで頂き、大切に使用させていただきます。
大学が、一人一人の生徒に、これほどきめ細やかな指導、配慮をしてくれるという事に驚き、感動しました。
とてもお忙しい中、福岡までお越し頂き、大変ありがたく思っております。心よりお礼申し上げます。大学及び父母会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。



秋田会場

佐々木 恭輔

七月一日、秋田キャッスルホテルにて開催され、渡辺学長、塩田教授、志村副部長、新保係長のご臨席を頂き、父母は六名の参加で短い時間ではありましたが、授業の力リキュラム、キャリアセンターの概要など有意義なひと時を過ごさせて頂きました。

渡辺学長が座右の銘としておられます「静かに行く者は健やかに行く、健やかに行く者は遠くまで行く」この言葉の意味を、じっくり噛みしめ、基礎的学問に取組み、一人ひとりが自分の力を伸ばし、成長できるように子供を温かく見守って欲しいとの言葉を頂きました。

また、「目標を決めたら持続させること」、「出発が遅くても到達点は同じである」との言葉に今混乱している社会情勢の中で、今やらなければならぬ事と、これからやらなければならない事を仕分けしていくことが、子供の将来に向けた、メッセージであると思われました。
個別面談でも子供の成績や、就職活動について、適切なアドバイスをいただくことができました。



懇談会を通じ、子供を安心して任せでき、将来を託すことができる大学と確信いたしました。
最後になりますが、このような機会を作っていただきましたことに感謝いたしますとともに、大学及び父母会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

東京会場

高井 佳子

七月七日(土)、雨雲に空を覆いつくされ、傘の手放せない一日でした。十時から九段一号館の地下二階中洲記念講堂にて、平成二十四年度地区別父母懇談会が開催されました。

初めに岩田父母会長の挨拶、司会の教學課鈴木さんの進行により、学長・副学長・土屋先生・学務局長の紹介、渡辺学長の挨拶。続いて、文学部については吉崎副学長、国際政治経済学部については土屋先生が、それぞれ詳しく説明されました。最後に、教學課中嶋さんから、配布資料にもとづき学生の学習状況や学年暦さらには、当日配布されました子どもの履修登録確認表・成績通知書の見方など、説明されました。たくさん保護者が参加されていました。

大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

昼食は、地下一階学生食堂で、配布された食券とお弁当・お茶を引き換え、そこでハンバーグ弁当をおいしくいただいた後、十三階のラウンジに移動し、コーヒーをいただきました。
十四時からの個別相談では、夏期中国語・歴史文化研修や広報誌「学」



栃木会場

北條 由美子

栃木会場の父母懇談会は、七月二十一日(土)の午前十一時よりチサンホテル宇都宮に於いて開催されました。大学より菅原淳子国際政治経済学部長・五井信文学部教授・神河秀春キャリアセンター部長、山崎修教学課課長補佐、平田恵教学課課長補佐、新保和之入試課係長にご出席をいただき、父母十六名の参加で行なわれました。

午前中は、始めに菅原国際政治経済学部長より、大学の現況について資料を見ながらお話しいただきました。来年度より新カリキュラムになること、すべての授業を英語で行うプログラムが準備されているそうです。次に、五井文学部教授より、来年度より全学部が九段校舎にて学ぶことになること、数多くの優秀な教員を輩出している教職課程は中学・高校の免許に加えて玉川大学の通信教育を受けることにより小学校免許も取得できるそうです。これは、少人数できめ細かな指導の成果だと感じました。山崎教学課課長補佐からは、学年の学習状況、学生生活について説明があり、さらに当日配ら



れた履修登録確認表、成績一覧表、GPAの見方について丁寧な説明されたので理解することができました。神河キャリアセンター部長から、昨年度、今年度の就職状況について説明がありました。

午後の個別相談では、活発に相談が行われ、先生方より具体的なアドバイスをいただくことができ、有意義な一日でした。

鹿児島会場

佐藤 加代子

地元、鹿児島で七月二十二日に、地区別父母懇談会が開催されました。私は、遠く息子の通う大学のことを、少しでも知ることができるとは、ないかと思いついて参加させていただきました。出席者は二名でしたが、はるばる東京から渡辺学長、江藤文学部長、井上教学事務部長、小西入試課長のご臨席を頂きました。とても和やかな雰囲気の中で、お話を聞かせていただきました。

大学は、長い歴史や誇り高い伝統のもと、理念や目標に沿って学生達の個々の教育に携わってくださっていることがわかりました。

このような環境の中、専門的な分野の知識の他に、人との関わりの中で人間的にも成長できるように願わずにはいられません。

昼食に、美味しいお弁当をいただき、雑談や個々の質問を受けていただき、気軽にわかりやすく答えていただきました。近年の地震などの自然災害に対しても、これまでの体験を生かし危機管理に取り組んでいるということでした。余談ですが、ここ鹿児島にも二松学舎大学の卒業生



もたくさんいらっしゃるとのことや、偶然にも私の次男の通う高校の校長先生も卒業生でいらっしゃるということもわかり、遠い存在のようになった大学が、とても身近に感じ、うれしくなりました。

今回、このように貴重な機会を設けてくださった学校の先生方、父母会の方々に深く感謝申し上げます。

新潟会場

染谷 勇

去る七月一日、新潟市に於て開催されました父母懇談会に、息子を東京へ送り出して初めて参加させていただきました。大学より文学部長として各課担当の方より教育理念、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スルニ在リ」

「日本文化・東洋文化の本質を身につけた異文化に対する深い理解を備えた真の国際人」二松学舎大学の志と共に学ぶ学生の学習状況等、お話しを伺う事ができ、現在の息子の大学での生活環境を確認する事ができました。職員の方々のお話を聞きながら大学受験を控え不安感、焦り、そして日々イライラ立つ息子の顔を思い起こしております。話が進むにつれなぜ息子が日本文学を学びたかったのか、なぜ二松学舎大学へ進学希望したのかが理解する事ができました。そして文学部への合格が決まった事、お父さん合格したよと言った息子の満面の笑顔を思い出しておりました。やはり学ぶべきことは本当に学ぶべき所へ行くべきで有ると感じた時でもありません。

大学生活の中で少しでも多くを学



びそして多くの人と出会い心豊かな人物に成長してもらいたいと思うし、時代と共に倫理観が変化し神経質な現代社会となった今日、大学での出来事すべてが将来社会貢献という場で役立つ事と思います。

己を知り自国の文化を知り他人を知り、そして異国の文化に触れ自己の成長へと繋いでいく大変な事ですが妥協が有っても挫折する事無い志と信念そして利他の心を学びつつ

平成24年度 地区別父母懇談会を終えて

今年の地区別父母懇談会は、例年より六月の下旬から七月下旬にかけて開催されました。出席者数は表をご参照ください。

各地区に参加された父母からの意見とおり、実りある懇談会になったようです。

当日ご協力頂いたアンケートにつきまして、十二頁に報告を掲載しました。ご高覧ください。

実施日	曜日	開催地	開催会場	4年	3年	2年	1年	出席者数	実出席者数
6月24日	日	青森県	青森国際ホテル	1	0	2	1	4	6
6月24日	日	福岡県	都ホテル	0	1	2	1	4	6
7月1日	日	秋田県	秋田キャッスルホテル	3	0	1	0	4	6
7月1日	日	新潟県	ホテルオークラ新潟	3	4	6	3	16	23
7月7日	土	東京都	本学九段校舎	38	65	45	79	227	297
7月21日	土	栃木県	チサンホテル宇都宮	2	3	1	6	12	14
7月22日	日	鹿児島県	ホテルレクストン鹿児島	0	0	1	1	2	2

ざいます。しかし常に役立つ事といえば過去受けてきた教育そのものが基本なのだと思います。尚更の息子が大学へ進学した事を機にまだまだ人文学部事の大切さを実感し親として子供達に恥じる事のない人生でありたいと思います。この度息子に学舎の門を開いて下さった二松学舎大学教職員の皆様方に心より感謝申し上げます。

企業が求めている学生の資質と キャリアセンターの学生支援について

今年度の東京地区別父母懇談会は、七月七日に九段校舎で開催されました。その折に、スーパリーに内定した女子学生による内定報告と、内定先スーパリーの採用責任者による「内定を出した理由」についてお話しいただきました。

内定した女子学生について

スーパリーに内定した女子学生は、本学ではごく普通の学生です。特に目を見張るような経験があったわけではありません。また、内定したスーパリーが第一希望の企業ではありませんでした。結果として第二希望である内定したスーパリーに決めたのです。

では、なぜごく普通である彼女が内定したのか。
採用責任者が彼女を内定した理由を内定報告会で話してくれました。その理由は、
①会社説明会のとき輝いて見えた。
②面接の時、笑顔が良かった。
（スーパリーは接客が命）
③会社で何をどのようにやっていきたいのかを具体的に説明してくれた。

多くの企業で十月一日に内定式が行われ、今年度の採用活動を終了するところも出始めました。

一方で、現在も採用活動継続中の企業もたくさんあります。
今年度は「二カ月遅れ」の就職活動のために、しっかりと準備ができた学生と、そうでない学生の差がより顕著に表れ、内定（内々定）が同じ学生に集中してしまい、定員を充足できない企業も増えていきます。

昨年度あたりは、欠員が出て定員を充足していかなくても、そのまま終了してしまう企業が目立ちました。震災の影響も薄れたのか、企業の採用意欲はかなり高まっており「継続して採用したい」と、キャリアセンターにも、毎日のように四年生の新規求人案件が届いています。
今年の就職活動は、あきらめなければ、まだまだ十分にチャンスがあります。内定を得ていない学生がおりましたら、ぜひキャリアセンターに顔を出し、今までの活動の振り返りをするようにお伝えください。

十月を迎え、三年生の就職活動についてのニュースを耳にする季節となりました。今年度の三年生の就職活動はどのようなようになっていくのでしょうか？
スケジュールは今年の四年生とほぼ同じで、十二月スタートとなります。

コミュニケーションがとれた。
④何よりも、「やる気」があった。
おとうさん、おかあさん。
いかがでしょうか。
志望する企業に内定することは、そう難しいことではないことがわかりになるでしょう。

しかし、彼女が内定したスーパリーは大手ではありません。独立系の中堅スーパリーで今年度の採用数は三十名です。しかし、採用責任者の彼が面接した学生は、三百名以上です。その中から、彼女を内定したので、
それでは、皆さんのお子さんには、内定した理由の四つがはたして備わっているでしょうか。

企業が採用したい

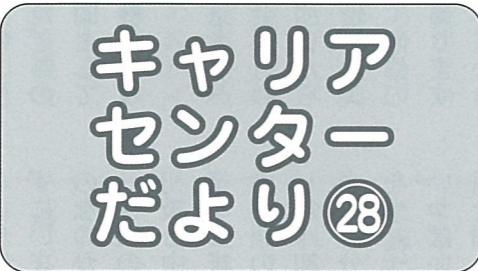
学生の資質について

企業が採用したい学生とはどのようなものでしょうか。
日本経済新聞社がまとめた「人事トップが求める新卒イメージ調査」（七月十六日朝刊掲載）では、
①コミュニケーション能力
②チャレンジ精神

このスタートというのは、会社説明会など、採用担当者との接触が可能になるということ、実際には、自己分析・企業研究・試験対策など、もうすでに始まっているのです。
キャリアセンターでは、十月一日（月）から、三年生の個人面談を実施しています。

この時点でどこまで準備をしているのかの確認をしていますが、準備不足の学生が多くいます。
しかし、まだ十分に時間がありますので、まずは個人面談を受けたかどうか、確認をお願いします。

さて、ここ数年、学生からは「就職先（企業）が見つからない」、企業からは「学生が集まらない」と、どちらからも相談を受けます。求人は充分にあるのに、就職ができないという、おかしな「就職難」の時代になってしまいました。「雇用のミスマッチ」などと報道もされています。「学生が集まらない」会社などと聞くとそんな会社に我が子を行かせて大丈夫かと心配になられるところでしょうが、キャリアセンターから見ると、かなり魅力的な企業も少なくありません。学生が知らないだけなのです。



- ③主体性
- ④行動力
- ⑤意欲・情熱
- ⑥責任感
- ⑦協調性

どれも大学生ならば、常識的な事項ではないでしょうか。
小学生から中学生までは、毎日を一所懸命に生活し、高校生では「自分」をしっかり持って生活してれば、何も難しいことではないのです。大学生活は、高校生までに培った基礎にさらに強固な土台を育成する期間なのです。
とはいいながら、本学の学生になるまでに自信を持つ基礎ができていないと言える学生は残念ながらそう多くはいないようです。

皆さんのお子さんはいかがですか。親の目ではなく、企業の採用責任者の目で我が子を判断してみてください。

「うん！大丈夫」なら、キャリアセンターを利用させる必要はありません。
「無理かもしれない」なら、キャリアセンターを利用させることです。

キャリアセンターの 学生支援について

キャリアセンター事務室には、企

この「雇用のミスマッチ」を解消する方法はあるのでしょうか。そこで私たちキャリアセンターの定番となります。

いち早く気づいた企業の方々は、現在の就職情報ナビ中心の採用活動から、キャリアセンターを通した求人活動にシフトし始めています。特定の大学を訪問し、ピンポイントで確実に採用学生を確保しようという動きが見え始めました。

「特定の大学」などという「学校差別に繋がるのでは？」、「二松学舎大学で大丈夫？」と思うかもしれませんが、二松学舎大学のブランドは、企業から一定の評価を受けており、決して不利益をもたらすものではありません。

百社受けても内定をもたないという状況と比べてどちらがよいでしょうか？
我々スタッフは、日々の学生指導だけでなく、一社でも多くの企業に「二松学舎大学のファン」となってもらうべく、卒業生の在籍企業との繋がりを大事にするともに、新たな企業開拓も積極的に進めております。

一方、学生たちの状況はどうでしょうか？

業関係・公務員・教員に関する資料や参考書を多数揃えております。これらは、一年生から利用することができます。

講座関係では、就職活動以前の一年生・二年生対象の「就職準備講座（二月）」を開催します。また、各種資格講座（秘書二級・簿記三級・サービスマスター二級）も開講しています。

三年生には、現在実施しています。全員に「個人面接」を行って各人の進路希望に対するアドバイスを行っています。本学の個人面接は五十年以上の歴史のあるもので、最近になって他大学もやると実施するようになったものです。必ず受けるようにお子さんに話して下さい。

なお、通年で「就職特別講座」を開講しています。内容は、企業への就職のための実践講座です。

キャリアセンターは、学生に対して真剣に対応いたします。

特に、未内定の四年生に対しては、十一月まで学内で合同企業説明会を開催してフォローしています。

卒業式当日まで、最後の最後まであきらめさせません。

学生とともに歩んで行く部署なのです。

先日もあるニュースの中で学生（他大学）が、情報ナビに登録することにより「メールなどがたくさん来るけど、どれが重要な情報かわからない」と嘆いていました。確かに現在の就職活動を見ると、情報過多と感じる部分が少ないありません。ハローワークなど公的な機関から民間の就職情報業者にいたるまで、「学生のために」と様々な情報が発信されています。その情報の取捨選択を的確にできるかどうか、採否の分かれ目になります。

学生にとっては、とても大切な就職活動です。そのアドバイスをすることもキャリアセンターの仕事です。

二松学舎大学のキャリアセンターは、大きな組織ではありません。マンモス大学に比べると、一見すれば支援が薄いと思われることもあるかもしれませんが、ただ我慢できることは、多くの大学が業者に丸投げで、通り一遍の就職指導をしている中、ほとんどの活動を自前で実施していることです。その基本は、「二松学舎大学の学生のためになるか」どうかです。これからも、学生一人一人の顔を見ながら学生支援をしていきたいと思っております。

ご父母の皆様には、より一層のご支援・ご協力をお願いします。

第16回 中国語・歴史文化研修 報告

今年で第16回目を迎

えた中国語・歴史文化研修は、八月九日から八月二十九日の三週間の日程で行われました。文学部、国際政治経済学部から計二十名(男子五名・女子十五名)の学生が参加し、前半を文学部の松浦史子専任講師、後半を佐藤進教授が引率しました。

本研修の特徴として、午前中はベテラン講師による中国語授業、午後は補講や中国の歴史文化講座も開講されます。また講座は、北京市内や郊外にある名所旧跡見学や伝統文化芸能鑑賞といった内容とも連動しており、学習を深められるようなプログラム構成となっております。

います。

参加学生のほとんどは、三週間も異国に滞在するのは初めての経験です。しかし、バイタリティ溢れる学生は、これまで学んだ中国語を駆使し、時には筆談をもって現地の人々とコミュニケーションをはかっていました。生活習慣の違いから、様々な場面で戸惑うことも多かったようですが、学生たちの環境への適応力は高く、徐々に行動範囲を広げ、生活ペースを掴んでいきました。この研修は勉強のみならず、人間としても成長をさせてくれる良い機会になります。

本学では毎年十一月、北京大学への長期留学の派遣留学審査会が行われます。毎年、この研修参加者からの応募があり、実際に長期留学を実現させている学生もいます。研修の参加目的は人それぞれではありますが、来年も是非とも多くの学生からの参加を期待しています。

(教学課 饗庭 貴子)



「中国語・歴史文化研修」に参加して

文学部・中国文学科 二年 山田紗都子

私は、中国に行ってみたくという気持ちと自分の語学力を試したいと思いつき、夏期短期留学に参加しました。中国語を一年半学んできたものの、中国語で会話をすることができずにはいきました。会話とはどういうものなのか知るべく参加しました。

今回の研修参加人数は、二十人で初級と中級の二クラスに分かれて授業をしました。中国人の先生による中国語の授業なので全てが中国語でした。初めは中国語が全く聞き取れず、自分の能力の低さに「今まで何を学んできたのか」という思いでいっぱいでした。しかし、毎日中国語を聞き、自分の力で伝えようとすることで自然と中国語が体にしみこんでいきました。

また、この研修では様々な史跡を見学しました。故宮や頤和園、天安門、万里の長城などの見学と京劇と雑技の鑑賞をしました。多くの世界遺産を見学することができ、また、どこも素晴らしいところで感動しました。

自由行動の時間も多くあり、たく



さんの中国人と触れ合うことができました。三週間授業を受けて、先生とは、帰ってきてからもメールのやりとりをするほど親しくなりました。私は、この研修に参加してもっと中国語が好きになりました。中国がどんな国で中国人がどんな人々か、実際に体験してみないと分からないことがたくさんありました。また、言葉が伝わらない人との意思疎通の仕方、笑顔の大切さなど人として成長できる点もたくさんあります。中国語に自信がなくても多くのことを得られる研修なので、是非参加してみてください。

私の学生時代



文学部 教授 佐藤 進

肉体労働者であった父の安給料のなかから東京に遊学する費用を捻出してもらったという事情があったので、私の学生時代と言えば、アルバイトの記憶が大半を占める。

入学当初の色々な手続が一段落すると、早速アルバイト募集掲示板にあった家庭教師の仕事に向かった。

しかし、家庭教師で三ヶ月以上続いたものはいくらもなかった。学習を嫌がる子供との波長がどうしても合わなかったのだ。

そこであっさり肉体労働に転ずることになった。まず、友達の紹介で佃島にある倉庫の荷役補助をやった。

主として新聞ロール紙の入庫作業の補助仕事だが、ほかに六十キロの小豆袋や三十キロの塩袋などをついで幅三センチの足場板を渡したりもした。塩はかつく肩がかぶれて真っ赤に腫れ上がるのだが、賃金単価が高かったので耐えることができた。

ビールの二十四本入りケースが山のように積まれたものを、彫り物を入れた職人がたくみに組んだロー

ダーを滑らせる仕事もあった。ビールは発酵して温度が上がりが、しかも圧力が高まっていたから、ローダーを外して落下させるとビール瓶が爆発する。ヘルメットと安全靴が欠かせない危険なアルバイトであった。

在籍していた都立大学の掲示板にも肉体労働はけっこうあった。大学が学園紛争で休講だったので、川崎の日本鋼管の鉄パイプを入庫する作業の助手をやった。闘争の鉄パイプではなく、ノンポリは水道管の鉄パイプを相手にしていたのである。

朝、川崎駅に行き、下請け重機会社のトラックの荷台に乗り込むのだが、私は仲間を数人引き連れていく手配師もどきだったので、私の賃金には色をつけてもらった。

ここには、小説家の卵や演歌歌手の卵など様々な人種がいた。ある時小説家の卵に「あなたははずれ頭を使う仕事につくな」と妙な予言をされた。あの具眼の土はついに芽がなくなかったけれど、果たしていつごろまで小説を書いていただけるのか。

学生相談室

だより 78

カウンセラー 奥野 光

学生相談室は、学生生活に関わることならどんなことでも相談できる機関です。学生数約三〇〇〇人のうち、年間四割、つまり一〇〇人ほどの学生が利用しています。

学生の友達つきあいの話を聞いていると、その場が楽しげであるか、波立っていないか、そして自分が雰囲気壊していないか、ということをとてても気にするようになっていくと感じます。「空気を読む」ことに価値が置かれるようになった頃からでしょうか。

友達との関係についての悩みは昔からあり、今でもあります。それに加えて、学生は「場」を気にしています。自分の言動が場を乱らけさせたのでは、自分がそこにいることで場の雰囲気を悪くしているのでは、などと悩むのです。

その場は楽しいけれど大事なことは話していない、その場の「空気」に合わせて無理にでもテンションを上げている、一緒にいるのにお互いのことをよく知らない、あるいは親しくはない、そんなことが起こっています。友達は自分で選

もちろん、場面や相手に配慮したコミュニケーションは重要です。でも、自分をないがしろにして、取り繕ってつきあうばかりだとどうでしょう。私たちがだって、おつきあいの後、家に帰るとどつと疲れが出たりしませんか。いい顔をしすぎるか。陰で愚痴を言いたくなりませんか。もし、相手を尊重しながら自分を出せるなら、多少雨が降っても結果的に地が固まるような関係が持てるなら、人生はもっと豊かになります。「おつきあい」のスキルは社会に出た時に思う存分発揮するとして、友達と過ごせる今だからこそ、それぞれが自分らしく、そして心地よくいられる関係を育ててみてほしいと願っています。



水戸理事長



二松学舎創立135周年
記念式典・講演会会場

創立一三五周年記念 式典・講演会

本学は、一〇月一〇日(水)に創立一三五周年を迎えました。式典は一〇時から挙行され、父母会役員の方々も列席いたしました。また十一時からは、東京大学名誉教授で解剖学者の養老孟司先生の、「未来を拓く文系脳の可能性」と題された講演会が開催されました。

土佐ゼミナール

私たちは『万葉集』を中心に上代文学を研究している土佐ゼミナールと申しませう！
私たちは三年生は『万葉集』の内容を扱い、各人研究し、発表をします。テーマの一例を挙げると、歌人、旅、恋、生き物、植物などがあります。同じ書物を扱っていても、各々の関心や興味の向かう先は違っていて新鮮です。必ずしも一つ一つが繋がっていないわけではないので、気付いたり疑問が生

まれたりする。つまり、全ての発表が自分の研究の材料になり得るのです！
二泊三日のゼミ合宿では『万葉集』に縁のある奈良を観光してきました。例年お世話になっている万葉荘の皆さんに、良くしていただいたお陰で奈良を満喫できました。他のゼミナールのように部屋で研究発表するのではなく、現地調査をかねた観光として楽しめます。例年合宿をきっかけとしてグッと仲良くなるみたいです。
土佐先生をはじめ
めとして、動物が

町ゼミナール

私たち町泉寿郎先生のゼミでは、日本漢学を研究しています。このゼミでは主に、江戸中期頃から明治初期頃までの文献を中心に読んでいます。講義は発表形式であり、毎回生徒が課題となる文章を訳し、先生がそれに対し訂正していくといった形の講義となっています。例えば、今年のゼミでは、江戸時代に発刊された書物や文教政策を歴代將軍ごとにまとめた内藤聡叟の『江戸文学志略』を読み

解きました。これにより、江戸期の学術の歴史的な推移を学ぶ事ができました。また、夏休み中には合宿を行います。今回は萩生徂徠の『学則』や「答屈景山」といった書物をみながら発表し、日が沈むまで先生と一緒に読み下すことに没頭しました。現代の私たちが、漢文で表記されている書物を読み下すことは決して容易ではありません。漢字一つ一つには意図がありま

ゼミ 探訪

好きで、マイワールド全開のゼミ生ばかりです。何事をも楽しもうとする土佐先生の下で、時に厳しくもありますが、そこをうまく切り替えてマイペースにゆるく、でも着実に卒論に向けて頑張っています。
国文学科三年 阿部 莉奈



用されていたりと、古い文献を理解するのは一筋縄にはいかず、非常に困難を極めました。しかし、こういった日本漢学の書物を読んで明らかにしていくと、自分にとって糧となるような考え方を発見できます。こういった己にとって好い発見をする喜びというものが、このゼミにはあると思います。

養的にも成長していけるのが、本ゼミだと感じています。
中国文学科三年 田口 賢治



平成二十四年度 学位記授与式(卒業式) について

本年度の学位記授与式(卒業式)は、左記のとおり挙行されます。

日時：平成二十五年三月十九日(火)
午前十時開式(九時三十分入場)

会場：メルパルク東京ホール

住所：〒一〇五-八五八二
東京都港区芝公園
二一五-二〇

TEL：〇三-三三四-三三二二

交通機関

- ・JR(山手線・京浜東北線)
浜松町駅から徒歩約八分
- ・都営地下鉄三田線
芝公園駅から徒歩約二分
- ・都営地下鉄浅草線・大江戸線
大門駅から徒歩約四分



編集後記

朝の空気がつめたく感じる今日この頃ですが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

会報七十八号では、六月から七月にかけて全国七会場での地区別父母懇談会の模様を掲載しています。今年の懇談会への参加者は三五四名と多く、会員の皆様の関心の深さを感じられ、また掲載させていただいた各地区の父母の方の文面から、離れた場所から見守るわが子への期待と心配の気持ちが感じられました。アンケートでの皆様からの多くのご意見は、大変参考になり今後活用させていただきます。また、今年「創縁祭」は十一月三日〜四日に行われました。学生たちのアイデアに富んだ催し物は、チームワークとチャレンジ意識が強く感じられ、将来社会に出てからの素晴らしい土台となることでしょう。父母会も参加し、多くの方々が「父母会休憩室」を利用されました。今回は役員によるギターの生演奏があり、和やかな雰囲気の中、お茶や会話を楽しんでいただきました。

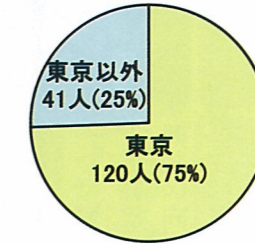
また、大学のホームページから検索できる父母会のホームページでは、学園祭等大学生活の情報を掲載しております。是非ご覧いただきますようよろしくお願いいたします。

地区別父母懇談会アンケート集計結果(報告)

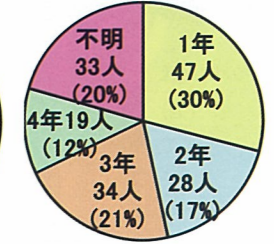
1. 全般総括

- 1) 東京会場分が全体の約75%を占めたが、その他会場分も25%あり、幅広いご意見が寄せられた。
- 2) 1年生ご父母(保護者)の割合が約40%を占め、大学に対する関心や期待の大きさが窺われる結果であった。
- 3) 東京以外地区の会場の方が全体的に父母懇談会実施項目の「有意義」回答率が高かった。日頃の情報量の差が数値として顕在化したものと思われる。
- 4) 諸般父母会活動のうち、特に活性化要望が強かったのは、「奨学金支給」、「大学行事への助成」、「地区別父母懇談会開催」の3項目であった。
- 5) 東京会場においては、「就職関連講話」や「学長講話」が好評であった。

①会場別協力者数

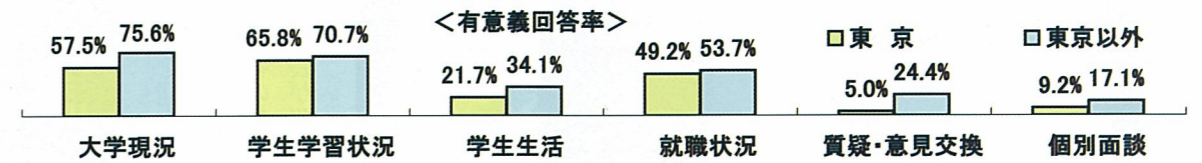


②在学生学年

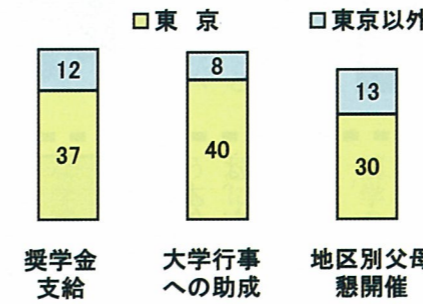


東京以外: 青森・秋田・新潟・栃木・福岡・鹿児島

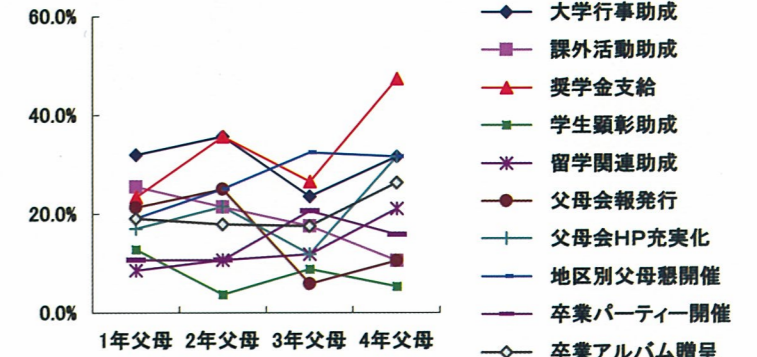
③父母懇談会実施項目の「有意義」回答率



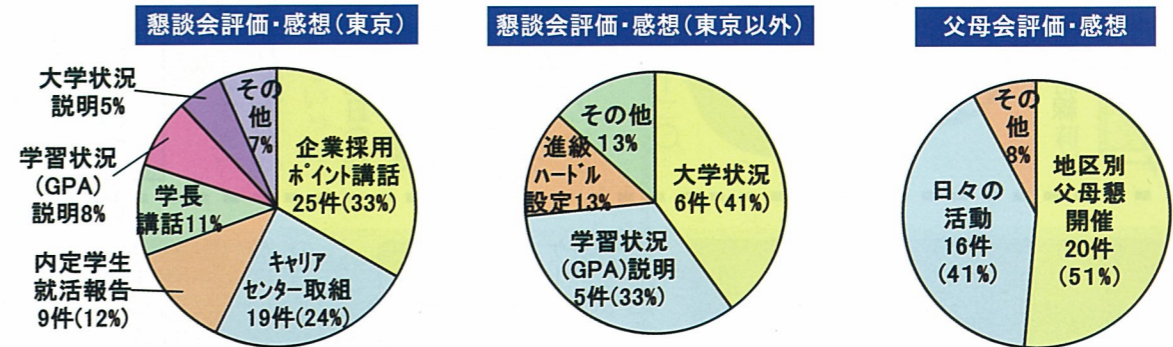
④父母会活動活性化要望(上位3項目件数)



⑤父母会活動活性化要望学年別傾向



⑤ご評価いただいた項目(件数&率)



2. ご意見・ご要望・ご提案への対応について

・懇談会運営(時間配分, 付帯設備管理, 資料・専門用語説明要領, 少人数時の配慮, 地方開催回数, 教員・在学生を交えた各種懇談会開催, 総会と懇談会の同日開催), 就職情報(全体像説明, 教員関連詳細, Uターン, 多くの企業人や就職内定学生との懇談), 父母会運営(奨学金制度の充実化, 課外活動支援の功罪検討), その他全般(大学入試のあり方, 国際化対応, 海外研修や前期成績通知方法改善)等、35項目43件の貴重なご意見・ご要望・ご提案をいただきました。種々の制約はございますが、父母会としては大学と連携して改善出来ることから漸次改善を進めて参ります。